

令和 6 年 6 月 20 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K01496

研究課題名（和文）EU・北極域における投資と安全保障：物語的政策分析モデルからのアプローチ

研究課題名（英文）Investment and Security in EU & the Arctic: Applying the Narrative Policy Framework

研究代表者

礪波 亜希 (Tonami, Aki)

筑波大学・ビジネスサイエンス系・准教授

研究者番号：80793760

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：パンデミックや国際情勢の変化により現地調査が困難となり、研究計画を見直し、文献サーベイやデジタルメディア調査を中心に研究を進め、主にオンラインで開催された会議で成果を発表した。ソーシャルメディアと日本を対象に論文を発表し、実務家向け講演で社会還元を行った。また、新規分野を開拓し、ソーシャルメディア使用者の政治意識に関する共同調査も実施した。関連論文を刊行し、学会で発表を重ね、特に物語的分析手法によるソーシャルメディア分析やオンラインハラスメントに関する論文が注目された。北極環境研究に関する論文も国際的に評価された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的意義として、本プロジェクトはパンデミックによる制約の中で、文献サーベイやデジタルメディア調査を活用し、ソーシャルメディアや日本の事例分析を通じて新たな知見を提供した。特に、ナラティブ政策フレームワークの分析手法を習得し、国際会議やワークショップで成果を共有、新たな共同研究を開始する契機を作った。

社会的意義として、研究成果を実務家向けの講演や支援を通じて社会に還元し、ソーシャルメディア使用者の政治意識に関する調査を実施。さらに、オンラインハラスメントや北極環境研究に関する論文を発表し、国際的な評価を得た。

研究成果の概要（英文）：Due to the pandemic and changes in the international situation that made field visits difficult, we focused on a literature and digital media survey and presented findings at online conferences. We published papers on social media and Japan, and later shared results with journalists at various workshops. We also conducted a joint survey on political attitudes of social media users in Japan. The planned on-site interviews were canceled due to COVID-19, so instead we revised our research plan and collected data online. We published 3 related papers and 2 book chapters and presented 16 papers at international conferences. Our papers on harassment on social media received particular attention. Additionally, a paper on Arctic environmental research was published and received international recognition.

研究分野：国際政治経済

キーワード：ソーシャルメディア ナラティブ政策フレームワーク オンラインハラスメント 政治意識 北極 持続可能な発展

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

外国直接投資 (Foreign Direct Investment, FDI) のセキュリティ化

FDI (「投資国の外で行われ、譲渡された資源の管理権が投資家に留まる投資」) は、経済グローバル化の象徴として、投資国・ホスト国双方の経済成長に加え、知識の伝播、資本供給など様々な正の効果をもたらすものとして、肯定的にとらえられてきた。しかし、新興国の大企業、とりわけ中国から先進国への FDI が急増したことから、先進国は、安全保障を根拠とする FDI の受け入れ規制を厳格化した。

2. 研究の目的

投資推進・規制制度はいかなる根拠に基づいて形成され、誰にどのように許容され、結果的にどのような影響を及ぼすのか、を明らかにする

投資を通じて特定の外国へ技術等が流出すると自国の国際競争力が低下し、自国の経済成長と繁栄に悪影響となる、という理由で、各国でほぼ同時期に、外国投資推進から規制へ、経済成長から安全保障へと急激な方向転換が起きた。EU の投資審査制度形成プロセスでは、確固とした安全保障上の問題に関するエビデンスではなく、投資受入側の対中脅威認識が影響を及ぼしていた。その一方で、中国資本を必要とする先進国の企業も存在していた。このように、投資と安全保障の関係についての認識と実際には大きなずれが生じていた。

3. 研究の方法

物語的政策枠組み (Narrative Policy Framework, NPF) の活用

外国投資政策は外交政策でありながら、国内に向けた産業・経済政策でもあり、企業、利益団体、地方政府など様々なアクターが関係する。また、経済自由主義や脅威認識など思想やアイデアが強い影響を持ちうる。こうした現象は、国家を単位とした合理的行為主体の相互作用として国際関係を分析するアプローチでは分析しにくい。本研究では、事例研究を研究手法として、規範、アイデンティ、物語 (ナラティブ) 等が国際政治経済にもたらす影響に注目する国際関係論・国際政治経済学のコンストラクティビスト・アプローチを取り入れた、物語的政策枠組み (Narrative Policy Framework, NPF) の活用を試みた。

事例研究の対象として、EU を含む欧州諸国の投資推進・規制制度、北極域への投資推進・規制制度の検討を予定していた。

4. 研究成果

(1) 研究の方向転換と社会還元

パンデミックや国際的な政治情勢の変化により、本プロジェクトは大幅な方向転換を余儀なくされた。現地訪問によるインタビューやアンケート調査が困難な中、文献サーベイやデジタルメディアの調査を中心に研究を進め、オンラインの国際会議や研究会等で成果を発表した。新たな事例分析の対象として、ソーシャルメディアと日本を対象に研究を進め、論文を発表・執筆し、これらに基づく実務家向けの講演や支援をつうじて、研究成果の社会還元を行った。また、ソーシャルメディア使用者の政治意識に関する調査を他の研究者と共同で実施した。

(2) 文献サーベイとデジタルメディアの収集・調査

文献サーベイやデジタルメディアの収集・調査を行った。国際ワークショップなどで結果を発表し、これにより、研究成果を広く共有するとともに、新たな共同研究の端緒を開くことができた。また、ナラティブ政策フレームワーク (NPF) に関する関連書籍の収集・調査を行い、有志の勉強会を通じて分析手法を習得した。

(3) 現地インタビューとアンケート調査

2000 年 1 月以降の新型コロナウイルス感染症の拡大のため、計画していた現地訪問によるインタビューやアンケート調査は実行することが叶わなかった。その一方で、欧州では EU 中国包括的投資協定 (2020 年 12 月) やロシアによるウクライナ侵攻 (2022 年 4 月) といった想定外の出来事が発生した。これにより、研究計画の大幅な見直しが必要となり、インターネット上での会議参加やデータ収集を代替手段として行った。

(4) 論文刊行と学会報告

2020～2023 年度の間、雑誌論文を 3 本、図書論文を 2 本刊行し、学会や研究会で 16 回の報告

を行った。物語的分析手法を用いたソーシャルメディアの分析結果を関連論文として発表することができた。さらに、英文書籍の書評論文が刊行され、国際的な評価を得ることができた。オンラインハラスメントに関する論文の刊行のほか、報道実務家との意見交換を通じて実務的な支援も行った。また、日本の北極研究者のネットワークである北極環境研究コンソーシアムをつうじて、日本の北極研究、とりわけ分野横断課題のまとめと分析を行った論文を発表した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Tonami Aki, Yoshida Mitsuo, Sano Yukie	4. 巻 10
2. 論文標題 Online harassment in Japan: Dissecting the targeting of a female journalist	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 F1000Research	6. 最初と最後の頁 1164 ~ 1164
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.12688/f1000research.74657.2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 礪波亜希	4. 巻 62
2. 論文標題 <書評>デイビッド・レーニー『希望の帝国：ニッポン衰退の感傷的政治』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本研究	6. 最初と最後の頁 197-200
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件（うち招待講演 8件/うち国際学会 10件）

1. 発表者名 Aki Tonami
2. 発表標題 Niche Seeking and Indirect Competition: Japan's Response to Chinese Seaport and Maritime Activities in Southeast and South Asia
3. 学会等名 Chinese Seaports in South and Southeast Asia（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 礪波 亜希
2. 発表標題 女性研究者の研究・教育環境と課題：「帰還者」としての経験から
3. 学会等名 日本国際政治学会2022年度研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Aki Tonami
2. 発表標題 Canada and Japan's Bilateral Relations and Arctic Priorities
3. 学会等名 APF Canada & OPRI-SPF Arctic Seminar (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Aki Tonami
2. 発表標題 Japan's Arctic Identities
3. 学会等名 International Studies Association 2021 Virtual Convention RB24: Regional and Global Challenges to Arctic Identities (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 礪波亜希、佐野幸恵、富永京子
2. 発表標題 「見えない女性」を可視化する 女性向けSNS「ガールズちゃんねる」の分析を例に
3. 学会等名 日本政治学会2021年度研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Aki Tonami
2. 発表標題 The post-pandemic recovery: EU-Japan connectivity and health in the Indo-Pacific
3. 学会等名 Policy Dialogue: EU&Japan connectivity and pandemic resilience in the Indo-Pacific (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Aki Tonami
2. 発表標題 Non-Arctic Countries and Arctic Politics
3. 学会等名 Arctic Politics Forum (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Aki Tonami
2. 発表標題 Economic Development in the Arctic
3. 学会等名 Asian Interests and the Path Forward in the New Arctic (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Aki Tonami
2. 発表標題 Engaging the Arctic: UK-Japan Responses
3. 学会等名 Security at the Frontier: UK-Japan Perspectives on Cyberspace, Outer Space, the Arctic and Electronic Warfare (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Aki Tonami
2. 発表標題 China and Russia in the Arctic: A Japanese perspective
3. 学会等名 Nordic-Baltic connectivity with Asia via the Arctic (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Aki Tonami
2. 発表標題 Arctic Economic and Security Agenda
3. 学会等名 6th US-Japan-Russia Trilateral Conference: Risks and Opportunities for Cooperation and Security in the Asia-Pacific (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Aki Tonami
2. 発表標題 Maritime transport and the changing geopolitical landscape in the Arctic: Watching the Arctic from Japan
3. 学会等名 The strategic triangle in the Arctic: Implications for Nordic and North East Asian States (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Emily Taylor, Alexandra Stockings, Aki Tonami and Jun Nagashima	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Chatham House	5. 総ページ数 45
3. 書名 Security at the frontier UK-Japan perspectives on cyberspace, outer space, the Arctic and electronic warfare	

〔産業財産権〕

〔その他〕

www.aki tonami .com

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------